

これからの梨の栽培管理について（第9号）

令和8年10月15日
なのはな農業協同組合
富山県富山農林振興センター

本年は、8～9月以降の降水量が多かったため、黒星病の秋型病斑葉（写真1）の発生が懸念されます。

秋型病斑葉は、翌春の主要な伝染源となることに加え、もうひとつの伝染源である黒星病芽基部病斑の発生も助長します。

つきましては、**来年の黒星病の発生を防止するため、秋季防除と落葉処理の徹底をお願いします。**



写真1 黒星病秋型病斑（薄墨色の黒い斑点）

1 これからの防除について

来年の黒星病芽基部病斑発生防止のための重要な防除となります。必ず実施してください。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害	防除 実施日
20	10月21日 ～23日頃	オーソサイド 水和剤 80 1,000倍	3日 (72時間)	300 g/10a	黒星病	
21	11月4～6日頃 80%落葉頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	21日	300 g/10a	黒星病	

【注意事項】

※収穫前日数が3日の薬剤散布後は、3日間（72時間）は収穫できません。「新高」や「新興」等、周囲の収穫園にも十分気を配りましょう（万が一、散布後72時間以内に収穫してしまった場合は、果実を廃棄してください）。

2 落葉処理について **※必ず、確実に実施してください！！**

黒星病秋型病斑が着いた落葉を放置すると、翌春、地表面から黒星病菌胞子が飛散し、幼果への病斑発生の危険性が高まります。特に、園地周囲や側溝、幹元に落葉が残らないよう十分注意してください。

（1）実施時期

11月中下旬（落葉後）～2月末（確実に処理を行うため、可能な限り年内に実施してください。）

（2）落葉処理の方法

- ①雑草が繁茂している場合は、落葉を処理しやすくするため事前に草刈りや除草剤散布を行う。
- ②松葉ぼうき等のかき集め、園外に持ち出し適切に処分するか、下記③～④により機械処理する。
- ③園地周囲や側溝、幹元の落葉（写真2）は、松葉ぼうき等で機械の走行路へ掻き出すか、園外に持ち出し適切に処分する。
- ④園地内部でモアやロータリー等で丁寧に葉を粉碎・すきこみを行う（機械の走行速度、処理時間は、次ページの表を参考にしてください）。

園地周囲や側溝、幹元に落葉が残らないよう注意してください。

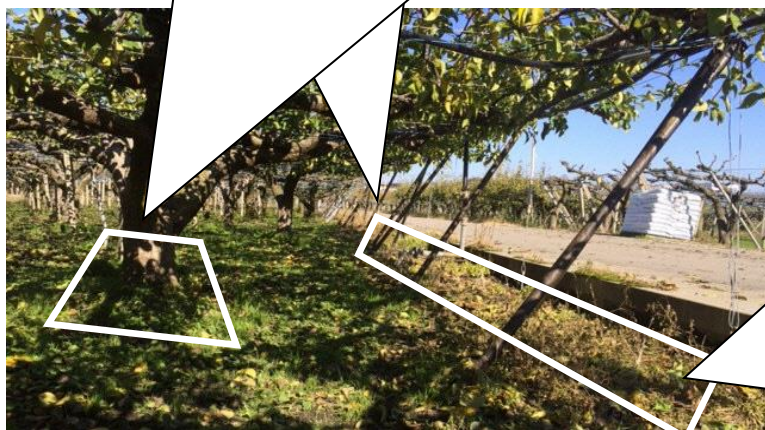


写真2 園地周囲や側溝、幹元の落葉

表 処理機械別の機械速度、処理時間（目安）

処理機械	機械速度、処理時間等
乗用モア	2 回処理（1 回につき 10 a を 45 分かける）
ロータリー	1 km/h 以下の速度で、10 a を 60 分以上かける
乗用モアと ロータリーの併用	・モア：10 a を 30 分かける ・ロータリー：1.5～2 km/h の速度で 10 a を 45～60 分かける

（3）落葉処理の留意点

- ①落葉処理の未実施あるいは処理精度の低い園地は、近隣園地（他の生産者）にも被害を及ぼすので、産地全体での取り組みが重要です。
- ②処理精度が低いと効果が半減します。機械による粉碎や耕起は、葉の形が残らないよう十分に行ってください。処理精度の確認を希望される方は、農林振興センターへご連絡ください。
- ③チップー等で粉碎したせん定枝を園内に放置しても、黒星病の発生には影響しないとされています。ただし、粉碎後に落葉と一緒にロータリー等で耕起し、すき込むと土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させるので、注意してください。

◎本年も、下記のとおり病虫害対策研修会を開催します。ぜひ、ご参加ください！

＜日 時＞ 令和8年10月17日（土）

第1部 13：00～14：30（追分・吉作・東老田・中老田地区生産者対象）

第2部 15：00～16：30（住吉・花ノ木・南部・射水地区生産者対象）

※第1部、2部とも同様の内容です。

＜場 所＞ 多目的研修梨会館

＜内 容＞ ① 本年度の黒星病及び害虫の発生状況と次年度対策について

② 天敵を利用したハダニ類総合防除試験及び先進地事例報告